

## 浜の活力再生プラン

## 1 地域水産業再生委員会

組織名	小島地区地域水産業再生委員会
代表者名	会長 吉本 勢治

再生委員会の 構成員	小島漁業協同組合、熊本市（市町村）
オブザーバー	熊本県北広域本部 熊本県漁業協同組合連合会

※再生委員会規約及び推進体制の分かる資料を添付すること。

対象となる地域の範囲及び漁業の種類	熊本市西区小島地区 採貝漁業256名、海苔養殖業8名、網漁業15名 延べ 279名（海苔養殖業者は、採貝漁業及び網漁業も兼業）
-------------------	---

※策定時点で対象となる漁業者数も記載すること。

## 2 地域の現状

## (1) 関連する水産業を取り巻く現状等

当地域では主にアサリ・ハマグリは採貝、海苔養殖を主体として漁業を営んでいる。アサリ・ハマグリは産卵時期になると、身が太くなるので高値で取引されている。しかし、当地域では、平成24年7月12日の九州北部豪雨によって、大量の堆積物が干潟を覆ってしまった。これによりアサリ・ハマグリなどの二枚貝は壊滅的被害を受け、アサリ・ハマグリは漁獲量が極端に減少した。現在、徐々に干潟は回復に向かってはいるが、未だ干潟本来の機能が発揮されていない状態にある。

また、当地域ではノリ養殖業が盛んに行われており、地域内で生産されているブランド海苔「煌（きらめき）」は、同一の漁場でほかの品種に比べ、甘み・うま味が強く出る特徴を持っており、種苗法で登録できるほどの精度があり、種付け日・張り込み日・漁場の場所を統一して生産している。

当地域のノリ養殖業者は8経営体あり、そのうち6経営体は後継者も漁業を営んでいる。また、すべての経営体で全自動海苔刈取船（システム船）・全自動海苔乾燥機を所有しており、1シーズンには1経営体あたり平均3,000万～4,000万円の水揚げがある。

しかしながら、近年、ノリ養殖海域での植物プランクトンの異常発生による栄養塩の低下等でノリの色落ちが発生し、ノリの品質低下と生産量の減少につながっている。また、単価の低迷も続いており、さらには、最近の漁業用資材や燃油価格の高騰によるコスト増によって海苔生産者の経営を圧迫している状況にある。

また、当地域の海苔支柱養殖場は白川と坪井川の淡水被害を直接受けるため、若い時期の海苔の芽が流れてしまうため、高値で取引される時期には支柱漁場における生産ができない問題を抱えている。

このような状況の中で、海苔漁業の後継者たちは将来に不安を寄せる声も聞こえ、資金的にも精神的にも厳しい状況にある。

## (2) その他の関連する現状等

・地域資源の活用がなされておらず、にぎわいに繋がっていない。

### 3 活性化の取組方針

#### (1) 基本方針

- ノリ養殖業の取り組み
  - ・海苔のブランド化を進め、単価の向上を図る。
  - ・陸上採描施設の設置を行い、ノリ品種「煌（きらめき）」の純粋なブランド品を作る。
  - ・海苔の芽流れ対策によって生産量の増加を図る。
- 採貝漁業の取り組み
  - ・漁場耕耘による環境改善や母貝放流、アサリ・ハマグリ等の陸上生産施設(育てる漁業)、保護区増設、有害生物の駆除等で二枚貝の資源回復を図る。
- 安心・安全な水産物の供給
  - ・直売所の設置
  - ・小島地域で採れた漁獲物を使用し、物産フェア、イベント等に積極的に参加する。
- 漁業者の経費削減の取り組み
  - ・全自動海苔乾燥機や海苔高性能刈取船(システム船)などの漁船を省エネ型に順次交換し、燃料コストの削減を図る。
  - ・船底の清掃
  - ・減速航行
  - ・海苔支柱養殖場を個人ごとで区画を連結させ、移動時間の短縮を図り、燃料コストを削減する。
- 一般市民へ漁業体験の場の提供
  - ・一般市民へ潮干狩りを行わせ漁業体験の場を設け、自然の大切さを理解してもらう。
- 周辺施設の整備
  - ・干潟漁場で一般市民を対象に潮干狩りを実施できるまで、周辺施設の整備を実施する。
  - ・老朽化した施設の再整備

#### (2) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

熊本県有明海域におけるアサリ採貝漁業の資源管理計画を遵守している。

※プランの取組に関連する漁業調整規則や漁業調整委員会指示等について記載する。

(3) 具体的な取組内容（毎年ごとに数値目標とともに記載）

（取組内容については、取組の進捗状況や得られた成果等を踏まえ必要に応じて見直すこととする。）

1年目（平成26年度）

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>下記の取組みにより、漁業収入を基準年より1%以上向上させる</p> <p>①海苔の単価向上及び生産量の増大 海苔養殖漁業については、美味しいとの評価が高い小島漁協独自のノリ品種「煌（きらめき）」について、種苗法に基づく品種登録の出願検討を行う。また、この品種の採苗・養殖方法、乾海苔加工方法を生産者全員で統一し、高品質で特色のある乾海苔の独占的な生産を行うことでブランド力を強化し、漁協全体の平均単価を向上させる。 さらに、2つの河川河口域に位置する海苔支柱漁場では、淡水の影響によるノリ幼葉の流失被害を受けやすいことから、淡水が流れ込みにくく、海水との攪拌が促進されるよう支柱柵を設置し、ノリ葉体の流失による生産量減少を抑えると共に、河口近くの漁場での養殖に適した海苔品種の改良を行うことで生産量の増加を図る。</p> <p>②漁場環境の保全と資源量の増大 採貝漁業、刺網漁業については、漁業者自らが海底耕うんにより底質環境を改善し、アサリ、ハマグリ、ガザミ、クルマエビをはじめとする魚介類資源の回復、生産量の増加を図る。 そのために、効果的、効率的な海底耕うんが実施できるよう使用機器の改良を行うとともに、アサリ、ハマグリの購入稚貝（主に有明海産）を漁場耕うんした場所に放流することや、保護区域の拡大等に取り組む。 さらに、漁協独自での放流用アサリ、ハマグリ種苗の生産・中間育成に向け、準備を進める。</p> <p>③安全・安心で高品質な水産物の供給 漁業者が漁獲物を直接消費者に販売できる直売所の検討や市・県主催のイベント等に積極的に参加し、漁業者が自ら漁獲した魚貝類を直接、消費者に販売することを検討する。また、消費者への直接販売にあたり、漁業者が小島地区で漁獲された安全・安心で高品質な水産物の供給を心がけることで販売量の増加につなげる。</p> <p>④一般市民へ漁業体験の場の提供 漁協は、干潟漁場で一般市民を対象にアサリ、ハマグリ等の潮干狩りを実施できるよう、来客者用の駐車場、シャワー等の施設の整備を検討する。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漁業者全員が一年に1回以上、漁船の船底清掃を行い、航行時の抵抗を減らすことで7%の燃油消費削減を行う。</li> <li>・ 漁業者全員が減速航行を行い、10%の燃油消費削減を図る。</li> <li>・ 海苔養殖漁業については、支柱漁場内の各生産者の海苔養殖網設置場所（小間）は複数箇所分散しているが、これを可能な限り個人ごとに集結・集約させることで小間の移動距離、移動時間を減らし、漁船の燃油コストの削減を図る。</li> <li>・ 海苔養殖漁業者は海苔刈取船（システム船）や全自動海苔乾燥機を、採貝、刺網漁業者は漁船エンジンを低燃費型へ更新することを推進し、燃油コストの削減を図る。</li> <li>・ 漁業経営セーフティネット構築等事業に加入することで、燃油の高騰による漁業コストの増加を抑制する。</li> </ul>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>水産多面的機能発揮対策事業、省エネ機器導入推進事業、漁業経営セーフティネット構築等事業、省燃油活動推進事業</p>

2年目（平成27年度）

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>下記の取り組みにより、基準年より漁業収入を2%以上向上させる</p> <p>①海苔の単価向上及び生産量の増大 海苔養殖漁業については、美味しいとの評価が高い小島漁協独自のノリ品種「煌（きらめき）」について、種苗法に基づく品種登録の出願検討を行う。また、この品種の採苗・養殖方法、乾海苔加工方法を生産者全員で統一し、高品質で特色のある乾海苔の独占的な生産を行うことでブランド力を強化し、漁協全体の平均単価を向上させる。 さらに、2つの河川河口域に位置する海苔支柱漁場では、淡水の影響によるノリ幼葉の流失被害を受けやすいことから、淡水が流れ込みにくく、海水との攪拌が促進されるよう支柱柵を設置し、ノリ葉体の流失による生産量減少を抑えると共に、河口近くの漁場での養殖に適した海苔品種の改良を行うことで生産量の増加を図る。</p> <p>②漁場環境の保全と資源量の増大 採貝漁業、刺網漁業については、漁業者自ら海底耕うんにより底質環境を改善し、アサリ、ハマグリ、ガザミ、クルマエビをはじめとする魚介類資源の回復、生産量の増加を図る。 そのために、効果的、効率的な海底耕うんが実施できるよう使用機器の改良を行うとともに、アサリ、ハマグリの購入稚貝（主に有明海産）を漁場耕うんした場所に放流することや、保護区域の拡大等に取り組む。 さらに、漁協独自での放流用アサリ、ハマグリ種苗の生産・中間育成に向け、準備を進める。</p> <p>③安全・安心で高品質な水産物の供給 漁業者が漁獲物を直接消費者に販売できる直売所の検討や市・県主催のイベント等に積極的に参加し、漁業者が自ら漁獲した魚貝類を直接、消費者に販売することで漁業収入の向上を図る。また、消費者への直接販売にあたり、漁業者が小島地区で漁獲された安全・安心で高品質な水産物の供給を心がけることで販売量の増加につなげる。</p> <p>④一般市民へ漁業体験の場の提供 漁協は、干潟漁場で一般市民を対象にアサリ、ハマグリ等の潮干狩りを実施できるように、来客者用の駐車場、シャワー等の施設を整備し、新たに観光体験漁業による収入を確保する。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業者全員が一年に1回以上、漁船の船底清掃を行い、航行時の抵抗を減らすことで7%の燃油消費削減を行う。</li> <li>・漁業者全員が減速航行を行い、10%の燃油消費削減を図る。</li> <li>・海苔養殖漁業については、支柱漁場内の各生産者の海苔養殖網設置場所（小間）は複数箇所に分散しているが、これを可能な限り個人ごとに集結・集約させることで小間の移動距離、移動時間を減らし、漁船の燃油コストの削減を図る。</li> <li>・海苔養殖漁業者は海苔刈取船（システム船）や全自動海苔乾燥機を、採貝、刺網漁業者は漁船エンジンを低燃費型へ更新することを推進し、燃油コストの削減を図る。</li> <li>・漁業経営セーフティネット構築等事業に加入することで、燃油の高騰による漁業コストの増加を抑制する。</li> </ul>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>水産多面的機能発揮対策事業、省エネ機器導入推進事業、漁業経営セーフティネット構築等事業</p>

3年目（平成28年度）

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>下記の取り組みにより、漁業収入を基準年より3%以上向上させる</p> <p>①海苔の単価向上及び生産量の増大 海苔養殖漁業については、美味しいとの評価が高い小島漁協独自のノリ品種「煌（きらめき）」について、種苗法に基づく品種登録の出願を行う。また、この品種の採苗・養殖方法、乾海苔加工方法を生産者全員で統一し、高品質で特色のある乾海苔の独占的な生産を行うことでブランド力を強化し、漁協全体の平均単価を向上させる。 さらに、2つの河川河口域に位置する海苔支柱漁場では、淡水の影響によるノリ幼葉の流失被害を受けやすいことから、淡水が流れ込みにくく、海水との攪拌が促進されるよう支柱柵を設置し、ノリ葉体の流失による生産量減少を抑えると共に、河口近くの漁場での養殖に適した海苔品種の改良を行うことで生産量の増加を図る。</p> <p>②漁場環境の保全と資源量の増大 採貝漁業、刺網漁業については、漁業者自ら海底耕うんにより底質環境を改善し、アサリ、ハマグリ、ガザミ、クルマエビをはじめとする魚介類資源の回復、生産量の増加を図る。 そのために、効果的、効率的な海底耕うんが実施できるよう使用機器の改良を行うとともに、アサリ、ハマグリの購入稚貝（主に有明海産）を漁場耕うんした場所に放流することや、保護区域の拡大等に取り組む。 さらに、漁協独自での放流用アサリ、ハマグリ種苗の生産・中間育成に向け、準備を進める。</p> <p>③安全・安心で高品質な水産物の供給 漁業者が漁獲物を直接消費者に販売できる直売所の検討や市・県主催のイベント等に積極的に参加し、漁業者が自ら漁獲した魚貝類を直接、消費者に販売することで漁業収入の向上を図る。また、消費者への直接販売にあたり、漁業者が小島地区で漁獲された安全・安心で高品質な水産物の供給を心がけることで販売量の増加につなげる。</p> <p>④一般市民へ漁業体験の場の提供 漁協は、干潟漁場で一般市民を対象にアサリ、ハマグリ等の潮干狩りを実施できるように、来客者用の駐車場、シャワー等の施設を整備し、新たに観光体験漁業による収入を確保する。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漁業者全員が一年に1回以上、漁船の船底清掃を行い、航行時の抵抗を減らすことで7%の燃油消費削減を行う。</li> <li>・ 漁業者全員が減速航行を行い、10%の燃油消費削減を図る。</li> <li>・ 海苔養殖漁業については、支柱漁場内の各生産者の海苔養殖網設置場所（小間）は複数箇所に分散しているが、これを可能な限り個人ごとに集結・集約させることで小間の移動距離、移動時間を減らし、漁船の燃油コストの削減を図る。</li> <li>・ 海苔養殖漁業者は海苔刈取船（システム船）や全自動海苔乾燥機を、採貝、刺網漁業者は漁船エンジンを低燃費型へ更新することを推進し、燃油コストの削減を図る。</li> <li>・ 漁業経営セーフティネット構築等事業に加入することで、燃油の高騰による漁業コストの増加を抑制する。</li> </ul>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>漁業経営セーフティネット構築等事業</p>

4年目（平成29年度）

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>下記の取組みにより、漁業収入を基準年より4%以上向上させる</p> <p>①海苔の単価向上及び生産量の増大          海苔養殖漁業については、平成28年度に種苗法に基づく品種登録を行ったノリ品種「煌（きらめき）」について、定められた品種の採苗・養殖方法、乾海苔加工方法を生産者全員で遵守し、高品質で特色のある乾海苔の独占的な生産を行うことでブランド力を強化し、漁協全体の平均単価を向上させる。          さらに、2つの河川河口域に位置する海苔支柱漁場では、淡水の影響によるノリ幼葉の流失被害を受けやすいことから、淡水が流れ込みにくく、海水との攪拌が促進されるよう支柱柵を設置し、ノリ葉体の流失による生産量減少を抑えると共に、河口近くの漁場での養殖に適した海苔品種の改良を行うことで生産量の増加を図る。</p> <p>②漁場環境の保全と資源量の増大          採貝漁業、刺網漁業については、漁業者自ら、引き続き、海底耕うんにより底質環境を改善し、アサリ、ハマグリ、ガザミ、クルマエビをはじめとする魚介類資源の回復、生産量の増加を図る。          そのために、効果的、効率的な海底耕うんが実施できるように使用機器の改良を行うとともに、アサリ、ハマグリの購入稚貝（主に有明海産）を漁場耕うんした場所に放流することや、保護区域の拡大等に取り組む。          さらに、漁協独自での放流用アサリ、ハマグリ種苗の生産・中間育成に向け、準備を進める。</p> <p>③安全・安心で高品質な水産物の供給          漁業者が漁獲物を直接消費者に販売できる直売所の検討や市・県主催のイベント等に積極的に参加し、漁業者が自ら漁獲した魚貝類を直接、消費者に販売することで漁業収入の向上を図る。また、消費者への直接販売にあたり、漁業者が小島地区で漁獲された安全・安心で高品質な水産物の供給を心がけることで販売量の増加につなげる。</p> <p>④一般市民へ漁業体験の場の提供          漁協は、干潟漁場で一般市民を対象にアサリ、ハマグリ等の潮干狩りを実施できるよう、来客者用の駐車場、シャワー等の施設を整備し、新たに観光体験漁業による収入を確保する。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業者全員が一年に1回以上、漁船の船底清掃を行い、航行時の抵抗を減らすことで7%の燃油消費削減を行う。</li> <li>・漁業者全員が減速航行を行い、10%の燃油消費削減を図る。</li> <li>・海苔養殖漁業については、支柱漁場内の各生産者の海苔養殖網設置場所（小間）は複数箇所に分散しているが、これを可能な限り個人ごとに集結・集約させることで小間の移動距離、移動時間を減らし、漁船の燃油コストの削減を図る。</li> <li>・海苔養殖漁業者は海苔刈取船（システム船）や全自動海苔乾燥機を、採貝、刺網漁業者は漁船エンジンを低燃費型へ更新することを推進し、燃油コストの削減を図る。</li> <li>・漁業経営セーフティネット構築等事業に加入することで、燃油の高騰による漁業コストの増加を抑制する。</li> </ul>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>漁業経営セーフティネット構築等事業</p>

5年目（平成30年度）

（最終年度であり、今までの成果を検証するとともに、取組内容を見直しつつ、引き続き以下の取組を確実に実施する。）

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>下記の取組みにより、漁業収入を基準年より5%以上向上させる</p> <p>①海苔の単価向上及び生産量の増大 海苔養殖漁業については、平成28年度に種苗法に基づく品種登録を行ったノリ品種「煌（きらめき）」について、定められた品種の採苗・養殖方法、乾海苔加工方法を生産者全員で遵守し、高品質で特色のある乾海苔の独占的な生産を行うことでブランド力を強化し、漁協全体の平均単価を向上させる。 さらに、2つの河川河口域に位置する海苔支柱漁場では、淡水の影響によるノリ幼葉の流失被害を受けやすいことから、淡水が流れ込みにくく、海水との攪拌が促進されるよう支柱柵を設置し、ノリ葉体の流失による生産量減少を抑えると共に、河口近くの漁場での養殖に適した海苔品種の改良を行うことで生産量の増加を図る。</p> <p>②漁場環境の保全と資源量の増大 採貝漁業、刺網漁業については、漁業者自ら、引き続き、海底耕うんにより底質環境を改善し、アサリ、ハマグリ、ガザミ、クルマエビをはじめとする魚介類資源の回復、生産量の増加を図る。 そのために、効果的、効率的な海底耕うんが実施できるよう使用機器の改良を行うとともに、アサリ、ハマグリの購入稚貝（主に有明海産）を漁場耕うんした場所に放流することや、保護区域の拡大等に取り組む。 さらに、漁協独自での放流用アサリ、ハマグリ種苗の生産・中間育成に向け、準備を進める。</p> <p>③安全・安心で高品質な水産物の供給 漁業者が漁獲物を直接消費者に販売できる直売所の検討や市・県主催のイベント等に積極的に参加し、漁業者が自ら漁獲した魚貝類を直接、消費者に販売することで漁業収入の向上を図る。また、消費者への直接販売にあたり、漁業者が小島地区で漁獲された安全・安心で高品質な水産物の供給を心がけることで販売量の増加につなげる。</p> <p>④一般市民へ漁業体験の場の提供 干潟漁場で一般市民を対象にアサリ、ハマグリ等の潮干狩りを実施できるよう、来客者用の駐車場、シャワー等の施設を整備し、新たに観光体験漁業による収入を確保する。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業者全員が一年に1回以上、漁船の船底清掃を行い、航行時の抵抗を減らすことで7%の燃油消費削減を行う。</li> <li>・漁業者全員が減速航行を行い、10%の燃油消費削減を図る。</li> <li>・海苔養殖漁業については、支柱漁場内の各生産者の海苔養殖網設置場所（小間）は複数箇所に分散しているが、これを可能な限り個人ごとに集結・集約させることで小間の移動距離、移動時間を減らし、漁船の燃油コストの削減を図る。</li> <li>・海苔養殖漁業者は海苔刈取船（システム船）や全自動海苔乾燥機を、採貝、刺網漁業者は漁船エンジンを低燃費型へ更新することを推進し、燃油コストの削減を図る。</li> <li>・漁業経営セーフティネット構築等事業に加入することで、燃油の高騰による漁業コストの増加を抑制する。</li> </ul>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>漁業経営セーフティネット構築等事業</p>

※プランの実施期間が6年以上となる場合、記載欄は適宜増やすこと。

※「活用する支援措置等」欄に記載するのは国の支援措置に限らない。

（4）関係機関との連携

取組みの効果が十分に発現されるように行政（熊本県、熊本市）、系統団体（熊本県漁業協同組合連合会）との連携を強固する。

4 目標

(1) 数値目標

漁業所得の向上 %以上	基準年	平成 年度 : 漁業所得	千円
	目標年	平成 年度 : 漁業所得	千円

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

--

※算出の根拠及びその方法等について詳細に記載し、必要があれば資料を添付すること。

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
水産多面的機能発揮対策事業	漁場耕うん、アサリ母貝の放流、保護区域の設置、漁場モニタリングを行い、二枚貝資源の回復、漁獲量増加を目指す。
省エネ機器等導入推進事業	全自動海苔乾燥機や漁船エンジンを省エネ型に順次交換し、燃料コストの削減を図る。
漁業経営セーフティネット構築事業	燃油の高騰時に、燃油コストの増加を抑制する。
省燃油活動推進事業	船底清掃、減速航行を行うことで漁船の燃油消費量を削減し、燃料コストの削減を図る。

※具体的な事業名が記載できない場合は、「事業名」は「未定」とし、「事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性」のみ記載する。

※本欄の記載により、関連施策の実施を確約するものではない。